

九州・山口県の火山活動 (令和8年9月1日～10月20日)

令和8年10月20日
福岡管区気象台
地域火山監視・警報センター

今回のポイント

- ・桜島で噴火活動が継続
- ・阿蘇山で火山ガス（二酸化硫黄）放出量が急増

桜島

噴火警戒レベル 3（入山規制）

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね 2 k m の範囲で警戒（大きな噴石、火砕流）

阿蘇山

噴火警戒レベル 2（火口周辺規制）

中岳第一火口から概ね 1 k m の範囲で警戒（大きな噴石、火砕流）

- ・（お知らせ）2026火山砂防フォーラムin鹿児島について

噴火警報及び噴火予報の発表状況 (令和8年10月20日現在)

火山名 は噴火警戒レベル運用火山

▲ 噴火警報発表中の火山

▲ 噴火予報発表中の火山 (レベル運用火山)

△ 噴火予報発表中の火山 (レベル対象外火山)

鶴見岳・伽藍岳

九重山

阿蘇山

噴火警戒レベル3→2

9/1: 噴火警報 (レベル2) 発表

雲仙岳

薩摩硫黄島

噴火警戒レベル2

口永良部島

噴火警戒レベル2→1

9/28: 噴火予報 (レベル1) 発表

霧島山 (えびの高原 (硫黄山) 周辺)

霧島山 (大幡池)

霧島山 (新燃岳)

噴火警戒レベル2

霧島山 (御鉢)

桜島

噴火警戒レベル3

諏訪之瀬島

噴火警戒レベル2

0 10 50 100 km

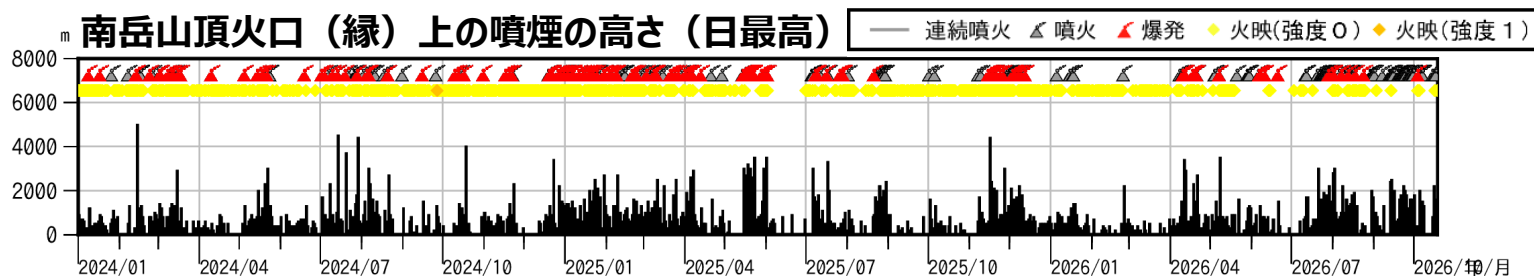
桜島

噴火警戒レベル3（入山規制）

■ 噴火活動

南岳山頂火口では、9月は噴火が94回（爆発なし）、
10月は19日までに噴火が42回（そのうち爆発が1回）発生。

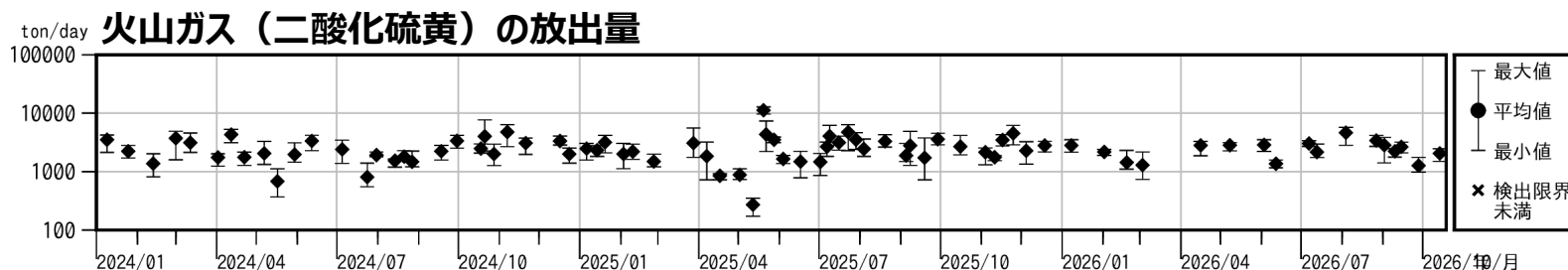
※白色噴煙・高さ不明を除く



2024年1月1日～2026年10月18日

■ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量

9月以降は1日あたり1,300～2,800トンと引き続き概ね多い状態。

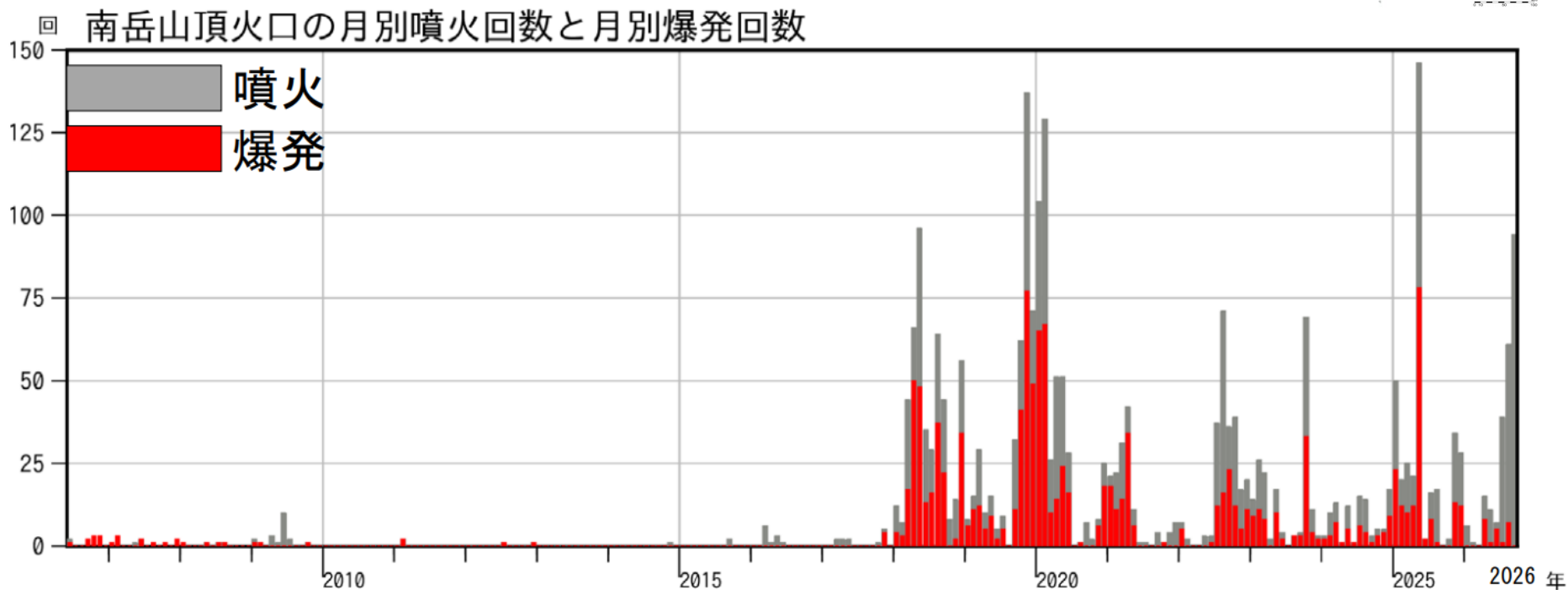
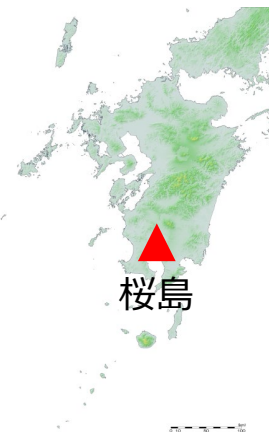


2024年1月1日～2026年10月18日



■ 長期の噴火活動

南岳山頂火口では、爆発の発生は少ないものの7月以降噴火回数が次第に増加。



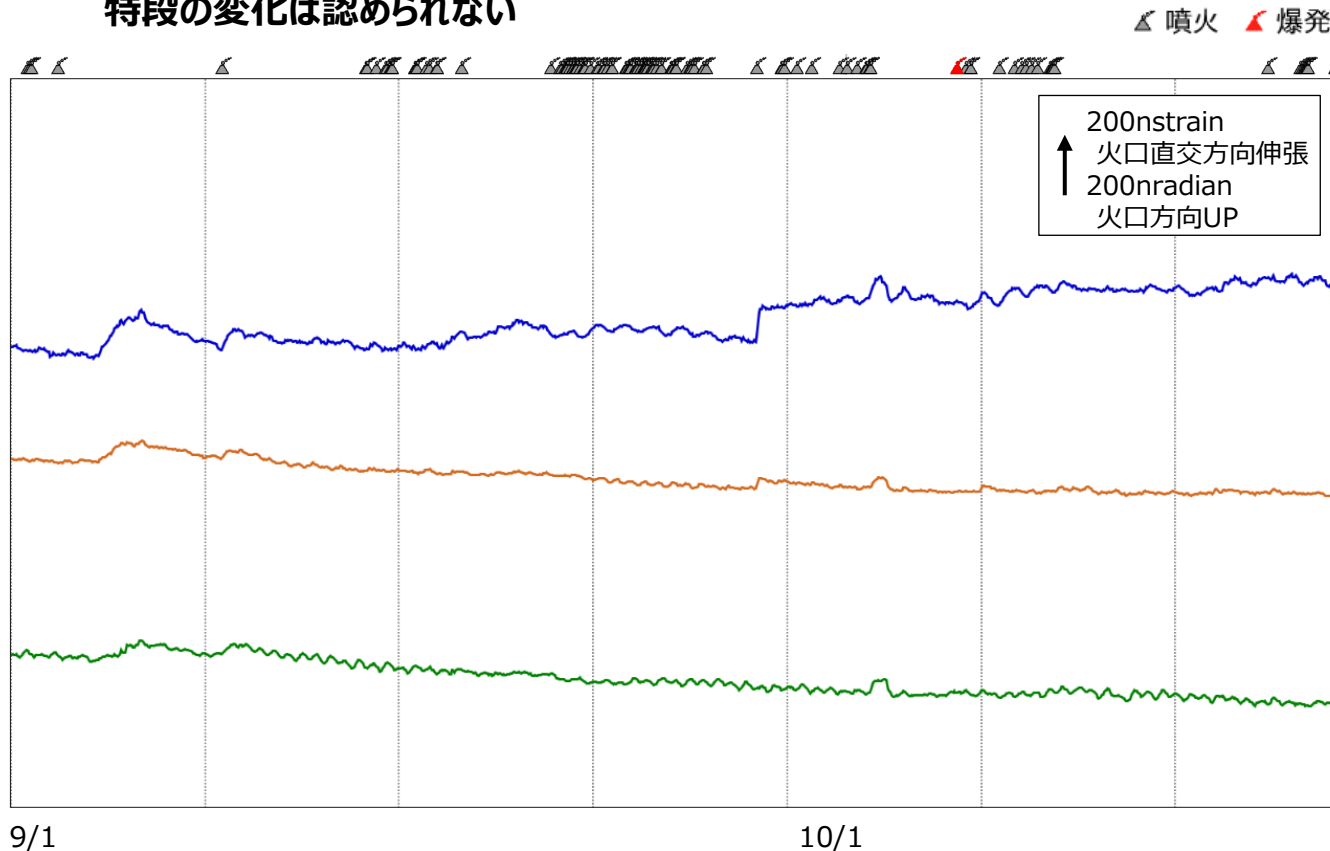
2006年6月1日～2026年9月30日

桜島

噴火警戒レベル3 (入山規制)

■傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況

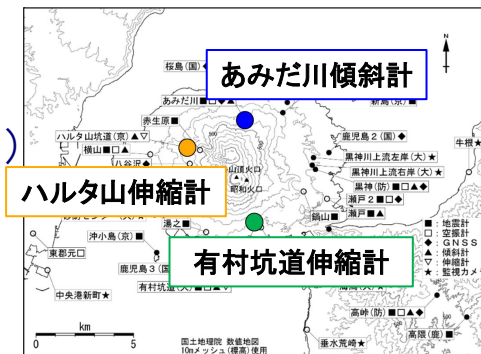
特段の変化は認められない



あみだ川
傾斜計
南北成分

ハルタ山
伸縮計
火口直交

有村坑道
伸縮計
火口直交



桜島 傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況(2026年9月1日～10月18日)

※あみだ川観測点は山頂火口域のほぼ北に位置していることから、傾斜計南北成分の南側が上がる傾斜変動を火口側が上がる変動とみなして表示。

※各観測点のデータには、潮汐補正を行っている。

※図の作成には、大隅河川国道事務所の有村観測坑道及び京都大学のハルタ山観測坑道の観測データを使用。

桜島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル3（入山規制）

警戒事項等

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する**大きな噴石**及び**火砕流**に警戒してください。



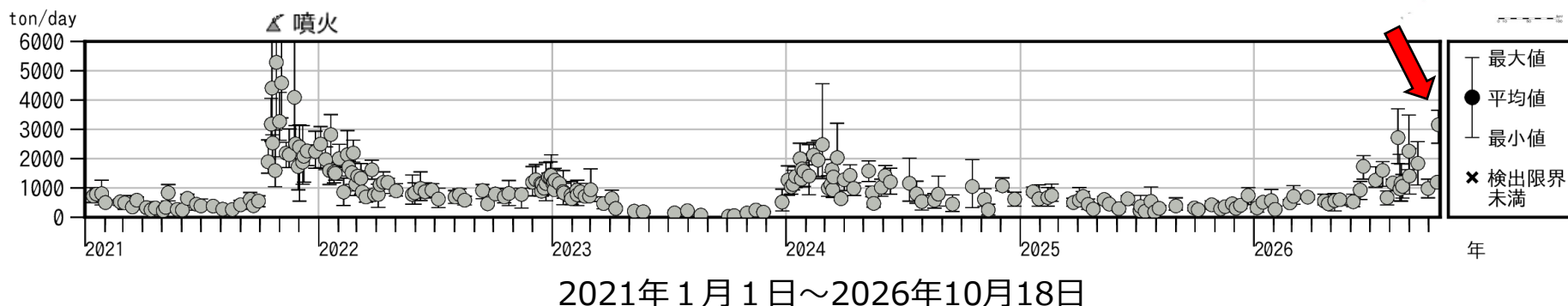
南岳山頂火口及び昭和火口から概ね2 km

- ・風下側では**火山灰**だけでなく**小さな噴石**が遠方まで風に流されて降るため注意してください。
- ・爆発に伴う大きな**空振**によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。
- ・降灰状況により、降雨時に**土石流**が発生する可能性があるので留意してください。

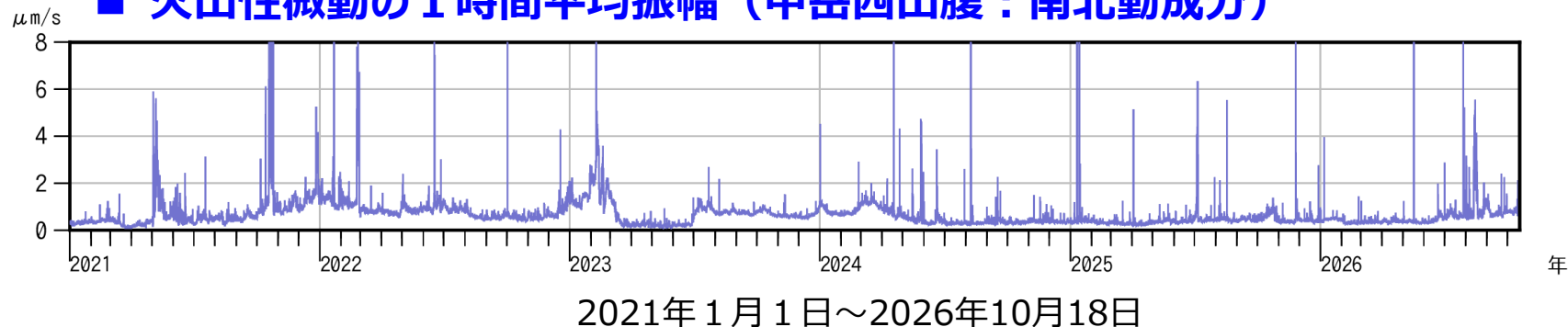


■ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量

10月16日の観測で、1日あたり3,200トンと**急増し非常に多い状態**。
3,000トン以上を観測したのは、2021年11月以来。
19日の観測では、1日あたり1,200トンと減少。



■ 火山性微動の1時間平均振幅（中岳西山腹：南北動成分）

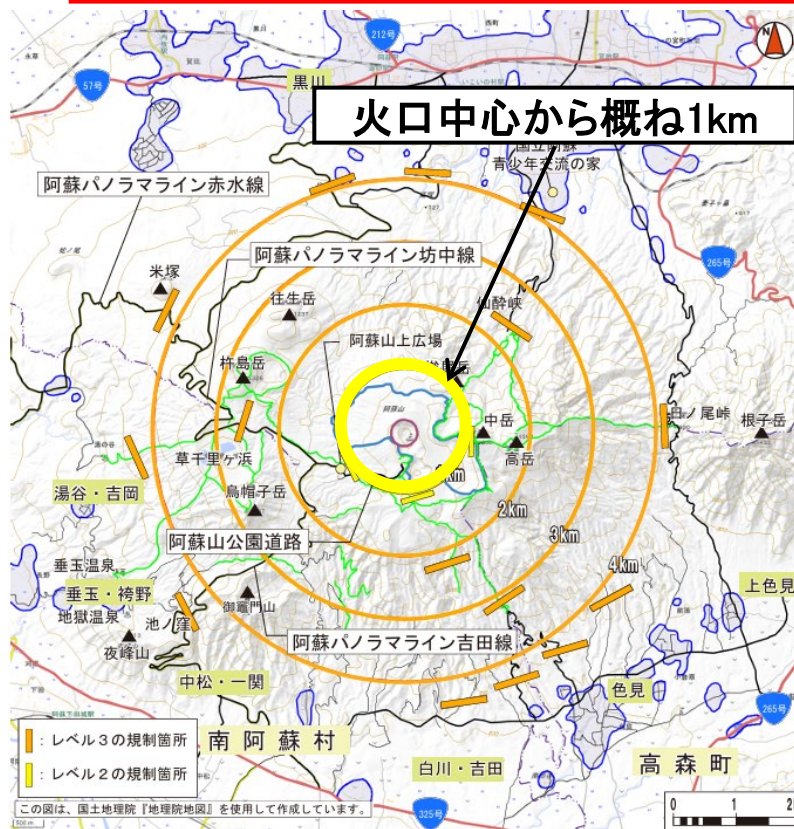


阿蘇山 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2（火口周辺規制）

警戒事項等

中岳第一火口から概ね 1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。



レベル3（入山規制）：
火口から概ね2km以内立入禁止。
規制範囲は居住地域付近（概ね4km）まで活動状況により変更。
○の範囲内。
・中岳・高岳等への登山道の立入禁止

レベル2（火口周辺規制）：
火口から概ね1km以内立入禁止。○の範囲内。
・阿蘇山公園道路は利用できません

レベル1（活火山であることに留意）：
火口内等常時立入禁止。
○の範囲内。

凡例	
—	一般道
—	国道
—	登山道
○	中岳第一火口
○	居住地域

- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

■この図は、熊本県による阿蘇山火山防災マップをもとに、熊本県火山防災協議会、阿蘇山防災会議協議会及び地元自治体と調整して作成しています。
■各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、詳細については阿蘇市、高森町、南阿蘇村にお問い合わせください。

2026火山砂防フォーラム in鹿児島

「西郷隆盛生誕200年・没後150年カウントダウン記念」

2026火山砂防フォーラム

火山を知り、火山とともに生きる

～大規模噴火でも犠牲者ゼロを目指して～



桜島では、これまでに17回の大規模噴火が発生した。直近の大規模噴火である大正噴火は大量の軽石・火山灰の噴出と溶岩流出により甚大な被害が生じ、その後、降雨による土石流災害が長期化した。噴火に関連する死者・行方不明者は58名に達した。現在、地下深部に大正噴火直前と同程度のマグマが蓄積しており、将来の大規模噴火への備えが必要である。

こうした状況を踏まえ、鹿児島市で開催される「2026火山砂防フォーラム」では、「大規模噴火でも犠牲者ゼロ」をテーマに、火山防災の最先端の取組や観測体制、地域復興と防災の両立について議論し、桜島との共生のあり方を全国に発信するものとする。

鹿児島市周辺の
地域住民の方
参加無料
※行政職員は除く

令和8年
10月29日(木) 13:00～16:45
鹿児島県文化センター 宝山ホール

令和8年
10月30日(金)
研修地：桜島

主催/火山砂防フォーラム委員会(委員長 鹿児島市長 下鶴隆央)
共賛/鹿児島火山防災協議会 後援/国土交通省、内閣府、文部科学省、環境省、気象庁、林野庁、鹿児島県
協賛/(一社)全国治水砂防協会、(公社)砂防学会、(一財)砂防・地すべり技術センター、(一財)砂防フロンティア整備推進機構、
(一社)国際砂防協会、(NPO)土砂災害防止広域センター、(NPO)防災情報研究所

2026火山砂防フォーラムは、一般社団法人九州地域づくり協会「令和8年度公益目的支援事業」の支援により実施しています。
2026火山砂防フォーラムは「公益財団法人鹿児島観光光コンベンション協会」のMICE振替補助金を活用しております。

詳しくは「2026火山砂防フォーラム」ホームページをご覧ください。

2026火山砂防フォーラム

※鹿児島市周辺の地域住民で参加をご希望の方は
直接会場にお越しください。

- フォーラム 4,000円
- 意見交換 7,000円
- 現地研修会
 - ・桜島一周半日コース 6,000円
 - ・桜島一周終日コース 7,500円

※「意見交換会」「現地研修会」は「火山砂防フォーラム」参加者の付帯プログラムとなります。「意見交換会」「現地研修会」のみの参加受付は致しかねます。また、当日の受付もいたしかねます。事前の参加登録をお願いいたします。

※終日コース(昼食をご用意いたします。別途1,200円(現地現金精算))

申込登録受付期間

令和8年 7月30日(木)～10月15日(木)

CPD講習会(申請中)

詳しくはホームページをご覧ください。

お問合せ
2026火山砂防フォーラム幹事会事務局
(鹿児島市 危機管理課 桜島火山対策係)
TEL 099-216-1513
✉ kiki-kazan@city.kagoshima.lg.jp



1日目

10月29日(木) フォーラム

会場/鹿児島県文化センター 宝山ホール

※出演者やプログラムの内容は変更になる場合がございます。予めご了承ください。

13:00 開会式典 主催挨拶：下鶴 隆央 火山砂防フォーラム委員会委員長(鹿児島市長)
来賓祝辞：国会議員、鹿児島県知事、国土交通省砂防部長 他

13:30 基調講演①
「火山防災トップシティを目指して」
講演者：下鶴 隆央(鹿児島市長)

13:40 基調講演②
「南九州の火山の活動と観測」
講演者：中道 治久(京都大学防災研究所附属火山防災研究センター教授)

14:25 ポスターセッション：「全国の火山防災対策の取組」
休 憩 企画展：「桜島直轄砂防事業 50周年展示」

15:00 パネルディスカッション「次世代につなぐ桜島の魅力や防災の取組」

コーディネーター

パネリスト

コメンテーター



大野 宏之
(一社)全国治水砂防協会
理事長

井口 正人
京都大学名誉教授/
鹿児島市火山防災専門官

地頭 隆 隆
鹿児島大学名誉教授/
鹿児島市防災専門
アドバイザー委員

姥 千恵子
桜島ジオパーク
事務局長

竹ノ下 武宏
桜島校区コミュニティ
協議会会長

國友 優
国土交通省
水資源・国土安全局
砂防部長

16:40 閉会挨拶 16:45 閉 会

18:00 意見交換会(桜島 有村観測坑道に貯蔵している「焼酎」の振る舞いがございます。)

砂防を活用した「防災啓発」「地域活性化」ダイナミックSABOプロジェクト



2日目 10月30日(金) 現地研修会

※現地状況等により出発時間・場所、見学場所は変更する場合がございます。 ※集合・出発地は「新橋駅」交差点(甲東中学校南側)となります。

桜島1周
半日コース
(定員80名)

※2組に分かれます。

- 8:00集合、8:20出発▶桜島国際火山砂防センター▶有村溶岩展望所
- ▶黒神川砂防施設(地獄河原)▶有村観測坑道
- ▶桜島ビジターセンター▶ロードスーパー実演
- ▶13:55鹿児島空港(JR鹿児島中央駅経由)

桜島1周
終日コース
(定員40名)

- 8:00集合、8:20出発▶黒神川砂防施設(地獄河原)▶黒神埋没島
- ▶有村溶岩展望所▶桜島国際火山砂防センター▶湯之平展望所
- ▶レインボー桜島(昼食・休憩)▶桜島ビジターセンター
- ▶ロードスーパー実演▶有村観測坑道
- ▶15:55鹿児島空港(JR鹿児島中央駅経由)

※終日コース(昼食をご用意いたします。別途1,200円(現地現金精算))



以下、参考資料

（用語集、噴火警戒レベルの判定基準リンク集）

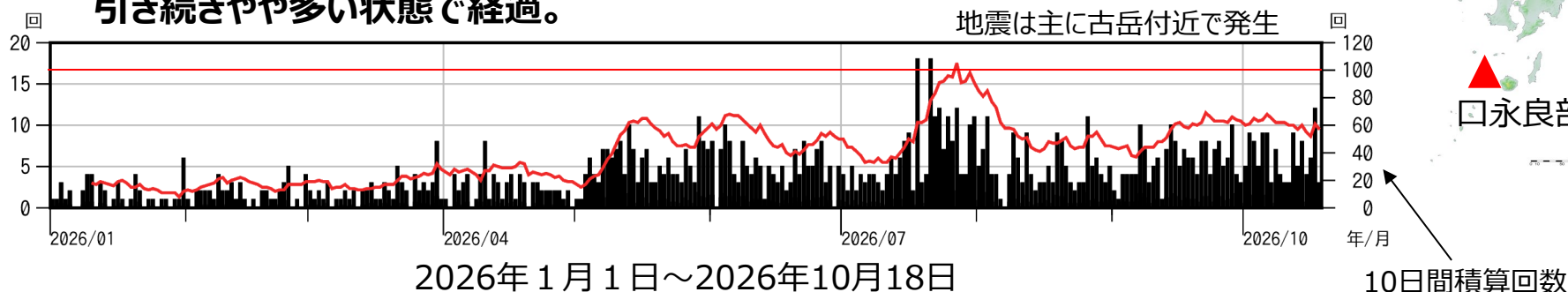
口永良部島

噴火警戒レベル 1（活火山であることに留意）

9月28日 噴火警戒レベル 2 → 1

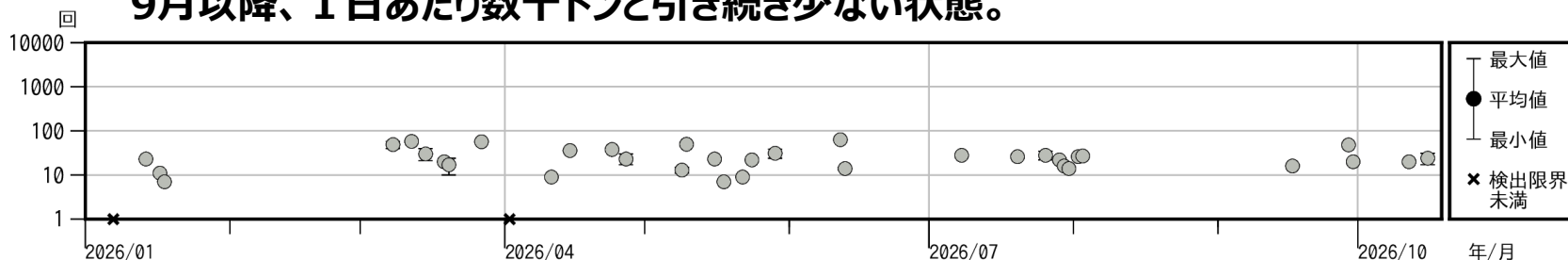
■ 火口浅部における火山性地震の回数

9月以降、古岳火口付近の浅いところを震源とする火山性地震は
引き続きやや多い状態で経過。



■ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量

9月以降、1日あたり数十トンと引き続き少ない状態。



口永良部島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル 1（活火山であることに留意）

警戒事項等

活火山であることから、新岳及び古岳の火口内では、火山灰等が噴出する可能性があります。また、新岳西側割れ目等の地熱域では、高温の噴気や火山ガス等に注意してください。



- 地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

用語集及び噴火警戒レベルの判定基準について

- **噴石** : 気象庁では、噴火によって火口から吹き飛ばされる防災上警戒・注意すべき大きさの岩石を噴石と呼んでいる。火山に関する情報では、防災上の観点から、「大きな噴石」および「小さな噴石」に区分して使用する。
 - ・**大きな噴石** : 概ね20～30cm以上の、風の影響をほとんど受けずに弾道を描いて飛散する噴石のこと。
 - ・**小さな噴石** : 直径数cm程度の、風の影響を受けて遠方まで流されて降る噴石のこと。
- **火砕流** : 噴火により放出された破片状の固体物質と火山ガス等が混合状態で、地表に沿って流れる現象のこと。火砕流の速度は時速百km以上、温度は数百℃に達することもあり、破壊力が大きく、重要な災害要因となりえる。
- **空振** : 噴火などによって周囲の空気が振動して衝撃波となって大気中に伝播する現象のこと。空振が通過する際に建物の窓や壁を揺らし、時には窓ガラスが破損することもある。火口から離れるに従って減速し音波となるが、瞬間的な低周波音であるため人間の耳で直接聞くことは難しい。
- **火山性地震** : 火山体またはその周辺で発生する地震のこと。マグマの動きや熱水の活動等に関連して発生するものや、噴火に伴うものもある。火山によっては火山活動が活発化すると多く発生する傾向がある。
- **火山性微動** : 火山体またはその周辺で発生する火山性地震よりも継続時間の長いもの。地下のマグマや火山ガス、熱水などの流体の移動や振動が原因と考えられるものや、微小な地震が続けて発生したことによると考えられるものがある。火山活動が活発化した時や火山が噴火した際に多く観測される。
- **火映** : 高温の溶岩や火山ガス等が火口内や火道上部にある場合に、火口上の雲や噴煙が明るく照らされる現象のこと。一般には夜間に観察される。
- **赤熱** : 高温の溶岩や噴気孔が赤く見える状態、あるいは現象のこと。
- **GNSS連続観測** : GNSS（全球測位衛星システム：Global Navigation Satellite Systems）の受信機を用いて連続的に地表の動き（地殻変動）を測定する観測。火山内部のマグマの動きを推定するために利用される。
- **爆発** : 噴火の一形式。桜島や霧島山など、「爆発」の用語が地元で定着している場合には、爆発地震の有無、空振の大きさ、大きな噴石の飛散距離などの条件を満たす噴火について、「爆発」を使用することがある。

✓ 気象庁が噴火警報等で用いる用語集はこちらからでも確認できます。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

✓ こちらで全国の噴火警戒レベルの判定基準とその解説が確認できます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/keikailevelkijunn.html